



●●●● 少女雑誌の部屋から ●●●●

今月号では少女雑誌『ジュニアそれいゆ』を特集いたします。少女雑誌の部屋だより『わすれなぐさ』でも何度となく取り上げております中原淳一。少女たちにとって憧れであり、カリスマ的存在だった淳一が自ら出版社を立ち上げて、少女向けに創刊した最初の雑誌『ひまわり』につづいて発行されたのが『ジュニアそれいゆ』です。『ひまわり』よりもさらに現代的で、豊富な内容となっています。ジュニアのために考えられたお洋服のデザインや着こなしは現代でもおしゃれのお手本にされることがありますが、ウエストがきゅっと締まったワンピースを素敵に着こなそうとするならば相当な努力が要るはず…と、自分のぷよっとしたおなかを見てため息をつく担当者なのでした。

ジュニア
それいゆ
ひまわり社

『ひまわり』の後続誌として中原淳一が創刊。初めは『それいゆ』の臨時増刊という体裁だったが好評を博したため3冊目から『ジュニアそれいゆ』となった。「十代のひとの美しい心と暮らしを育てる」の言葉のとおりジュニアに大切なことをあまさず含め、美しくて面白くてよい友だちになれるようにとの願いが込められていた。内容はファッションやインテリア、文学、手芸、美容など多岐にわたった。イラストカットには才気あふれるクリエイターを起用するなどして、若き才能を多く見出した。淳一が自ら表紙絵を手掛けていたが、1959年7月に心臓発作で倒れたため、同年9月号(第29号)より内藤ルネに交代した。(創刊 昭和28年3月～終刊 昭和35年10月)

『ひまわり』で活躍した作家

串田 孫一(くしだ まごいち) 1915-2005

東京都出身。東京帝国大学文学部哲学科卒。
昭和33年、尾崎喜八らと山の文芸誌『アルプ』を創刊。
昭和58年に終刊するまで編集責任者を務めた。
著作は膨大な量に上り、山岳文学、画集、小説、人生論、
哲学書、翻訳など多岐にわたる。初見靖一の筆名をもつ。
主な著書に詩集『羊飼の時計』、『山のパンセ』などがある。

中村 メイコ(なかむら めいこ) 1934-2023

東京都出身。2歳の時に映画「江戸っ子 健ちゃん」にてデビュー。その後、数多くの作品に出演し天才子役として注目された。15歳の頃、愛読していた少女雑誌『ひまわり』の懸賞小説に応募して入選。読者投稿ページの編集長などに抜擢された。昭和27年には初の著書となる『小さな花の背のび』をひまわり社より刊行。俳優、歌手、タレントとして活躍した。

たのしみかたいろいろ

編集長・中原淳一の美意識が詰まった雑誌『ひまわり』誌面のいたるところに淳一と編集スタッフの熱意があふれていました。

ジュニアそれいゆ
ぱたーん

今すぐにも取り入れたい、季節ごとのおしゃれの手ほどきが描かれていました。巻末には、それぞれの洋服の型紙や作り方が詳しく紹介されました。

絵物語

『足ながおじさん』『若草物語』など古典文学を短く読みやすく翻案した文章に、中原淳一の挿絵がつけられていました。

ミスター・ミスジュニアそれいゆ

名物企画だった「ミスター・ミスジュニア募集」はスターへの登竜門となりました。淳一に見出された多くのジュニアたちがスターとなって活躍していきました。

ひまわり会ニュース

ひまわりの花言葉「気高く、強く、美しく」で結ばれた「ひまわりの会」。若い世代の生活を愉しく豊かにする集いで、「ジュニアそれいゆ」「それいゆ」の愛読者が入会できました。誌面に各支部の活動報告を掲載。